

【オリエンタルコンサルタンツ協賛 これからの都心居住を考える 横浜まちづくり学生会議とまちテラス】

これからの都心
居住を考える

横浜まちづくり学生
会議とまちテラス

横浜まちづくり学生会議（早内玄代表）と有限責任事業組合（LLP）まちテラス（松井雅彦代表理事）は4日、横浜市の横浜市技能文化会館で「第4回横浜まちづくり学生会議—横浜を題材にこれからの都心居住を考える」を開いた。写真。オリエンタルコンサルタンツが協賛した。

会議は大学、研究室の枠を超え、都市に関心のある学生が議論を交わす場として、2015年にまちテラス主催で始まった。16年には学生主体の調整会議、運営委員会を設置し、まちテラスと共催で会議を運営している。

松井代表理事は「運営も含めて、学生に行ってもらう。会議に出席したからには、ほとんど意見を交わしてほしいと期待している」とあいさつした。早内代表は「大学、研究室の枠を超えて、少しでも方向性、ヒントが得られればと思っている」と述べた。

午前と午後の2部構成で行った。午前の部は「より住み

よい関外地区へ」「大岡川が主役のまちづくり」など5つの活動・研究報告を、横浜国立大と東京都立大の学生が発表した。

午後の部は、関内・関外地区を歩いた後、「横浜を題材にこれからの都心居住を考える」をテーマとして、グループディスカッションを行った。

